

（被災地報告）被災地における子ども会活動から学んだこと：気仙沼市・東松島市でのボランティア活動を通して（社大福祉フォーラム2013報告）

著者	災害支援ボランティアセンター・ボランティアグループcocoa
雑誌名	社会事業研究
号	53
ページ	15-17
発行年	2014-02
URL	http://id.nii.ac.jp/1137/00000268/



「被災地報告」

被災地における子ども会活動から学んだこと

—気仙沼市・東松島市でのボランティア活動を通して—

災害支援ボランティアセンター・ボランティアグループcocoa

古屋 被災地報告の1題目と2題目の順番を少しチェンジして、災害支援ボランティアセンター・ボランティアグループcocoaの皆さんによる報告を先にさせていただきます。「被災地における子ども会活動から学んだこと—気仙沼市・東松島市でのボランティア活動を通して—」ということで、今日の資料集24ページから画像も含めて掲載しています。そちらを参考にしながら、お聞きください。順番が入れ替わりましたが、cocoaの皆さん、よろしく願います。

稲葉 皆さん、こんにちは。私たちは、日本社会事業大学災害支援ボランティアセンター学生有志団体cocoaのメンバーです。

2011年3月11日の震災後、大学の災害支援ボランティアセンターからボランティアバスが月に1度運行されていました。cocoaの初期のメンバーは、ボランティアバスに参加して、現地の様子を知り、自分たちもアクションを起こそうと考えるきっかけとなり、cocoaを創立しました。

現在は宮城県気仙沼市・東松島市の児童館、仮設住宅を中心に小学生を対象とした遊びの会と、「震災を忘れない」、「被災地とつながる」、「大学内にいてもできる」をコンセプトに、厚生棟2階の生協喫茶室にて気仙沼カフェを続けています。本日も11時から2時までお店を出していますので、ぜひ足をお運びください。それでは報告を始めます。私達は多くの方々に支

えられて活動を行ってきました。

①「大学」…ボランティアバスや気仙沼カフェの運営を支援してくださっています。場所の提供、運営の資金補助、学生の安全を第一に考えた素地作り。素地の一例として、私たちの企画には必ず担当の先生が付いてくださいます。また、学校内で行う気仙沼カフェには、毎回多くの教職員の皆さんが参加してくださいます。

②「気仙沼市社会福祉協議会」…学生主体の子ども会活動を企画した際、被災地の受け入れ機関として最初にお世話になりました。当初一年生だった私達のメンバーと電話で繰り返し相談に乗ってくださり、企画に見合った活動場所を探し、紹介していただきました。また、企画書作りや活動に必要な現地の様子や安全管理に関するルールなどを教えていただきました。現在はKRA（一般社団法人気仙沼復興協会）と協力し、ボランティアの受け入れを行ってくださっています。

③「東松島市社会福祉協議会」…気仙沼市社協と同様に、私たちを受け入れてくれた機関の一つです。仮設住宅を中心にボランティア先を紹介していただきました。現在、私たちは東松島市社会福祉協議会のボランティアセンターを通して、東松島市被災者中央サポートセンターと連絡を取り合い、子ども会活動を続けています。

④「ボランティア先」…2011年12月、子ども達に楽しい時間を届けたいという想いからクリスマス会を企画し、cocoaの初めての活動として

気仙沼市大島児童館と東松島市グリーンタウンやもと応急仮設住宅へ行きました。

大島児童館では、小学生がインフルエンザによる長い休校など、震災による体や心への影響が今も残っていることを知りました。グリーンタウンやもと応急仮設住宅は、当時、東松島市で唯一自治運営をしている仮設住宅で、現在も遊びの会ですつながらを持ち続けています。自治会長をはじめ皆さんが共同で企画を考えたり、私たちの至らない点を指摘していただきました。cocoaにいる学生の成長は、これまでお世話になった皆さんのおかげです。

ここで今まで訪問したところを紹介します。気仙沼市鮎立児童館、面瀬小学校区学童保育、東松島市矢本運動公園応急仮設住宅、鷹来の森運動公園応急仮設住宅。この場をお借りして、私たちを受け入れてくださった皆様に感謝を申し上げます。

⑤「外部」…私たちの活動は、主に被災地での子ども会活動を行うこと、気仙沼カフェを行うことにありますが、この活動は自分たちのお金だけでやっていけるものではありません。活動を長く続けていくために、企業や助成機関が被災地支援の助成金を出して下さっていますので、そこに応募して助成金を得て活動を行ってきました。これまで赤い羽根共同募金会様、大和証券福祉財団様から助成いただき、心より感謝申し上げます。

⑥「気仙沼カフェ」…大学にいてもできる被災地支援ボランティアとして始めた活動です。気仙沼等の被災地のお菓子や飲み物を取り寄せ、提供しています。参加費300円でお菓子と飲み物を囲みながら、被災地支援の事など語り合う場になっており、これまでの収入や募金は気仙沼市社協に寄付させて頂きました。この活動は私たちにとって学生や教職員の方々、地域の方々と直接かわれる場所です。「震災を忘れない」「大学にいてもできる」というコンセプトを基に月に一度開催しています。先ほどもお伝えしましたが、11時から2時まで喫茶室にて開催していますので、お時間・ご興味のある人は、ぜひ足をお運びくだ

さい。

⑦「清瀬市」…清瀬市役所の方が大学祭で私たちの活動を知って下さり、そのご縁から、今年の3月にはシルバー人材センターのお祭りで気仙沼カフェを出店させて頂きました。清瀬市の多くの方々に私たちの活動を知ってもらおうきっかけとなりました。お祭りの翌日がちょうど3月11日ということもあり、私たちが企画した追悼式という意味を込めたキャンドルナイトにも地域の方々に足を運んでいただきました。今後も清瀬市の皆さんと「震災を忘れない」という同じコンセプトでつながっていかれたらと思っています。

このように私たちは多くの場所、多くの人々とつながり、現在も活動を続けています。このイメージは傘であり、この傘のつながりをもって、今後も前向きに活動していきたいと思っています。

私達は、被災地の子どもたちに遊ぶ機会や笑顔を届けたい。東北に元気を届けたい。そんな想いから活動は始まりました。何かしたいという希望と受け入れてもらえるかという不安の中で、私たちが活動できる場所を探しました。宮城県内の被災した地域にあるボランティアセンター計6カ所に電話をかけ、その結果、気仙沼市・東松島市で受け入れていただきました。

被災地に行ったら思ったことは、震災で多くの命が犠牲になったことを忘れないこと、被災地の今をたくさんの人に伝えていくことが、東北の被災地の復興のために私たちができること、ということです。私たちは、できることをできる限り継続していきたいと思います。学生はこの活動を行ううえで、アルバイトや学校活動、サークル活動など多くのことを並行しながらやっていかなければなりません。「この活動が現地で求められているのだろうか?」「この活動を続けていけるのだろうか?」悩み、心が折れてしまいそうになる人もいました。私たちは2011年から活動していますが、被災地の現状を知って、被災地支援は本当にこれでいいのかという葛藤が絶えず学生の中にもありました。しかし今、一年生の新しいメンバー

も加わり、みんなでやっぺいこう、続けていこうという気持ちを持って頑張っています。皆さん、ぜひ応援をお願いします。一緒に頑張っていきましょう。

古屋 災害ボランティアセンター・ボランティア

グループ cocoa の皆さんでした。もう一度盛大な拍手をお願いします。今の報告で紹介していただいたとおり、cocoa の皆さんは継続的な活動をしておられます。ぜひ、皆さんのご支援をお願いします。